

## 【呼吸器内科】

1. 研修指導責任者 黒田文伸

指導医 黒田文伸、篠原昌夫、露崎淳一、山内圭太

2. 定員

2名まで

3. 基本的目標

呼吸器疾患は一般の臨床において遭遇する頻度が高い。また、呼吸は生命維持に欠かせない活動であるため、呼吸器疾患は時に緊急性があり、重要性が高いと考えられる。呼吸器疾患は、多彩であるのが特徴で、他臓器疾患に伴って起こる肺病変も多く存在する。呼吸器疾患の基本的な理解を深め、初期対応を習得し、適切に専門医に紹介ができる医師を育てる事を目標とする。

4. 具体的目標

- (1) 呼吸器疾患の問診・診察等の初期診療の基本的事項を理解する。
- (2) 呼吸器疾患の主要徴候を理解する。
- (3) 一般血液検査に加え、腫瘍や間質性肺炎マーカーなどの検査データを適切に解釈できるようにする。
- (4) 胸部レントゲンの読影を学ぶ。
- (5) 胸部 CT の読影を学ぶ。
- (6) 適切な気道確保ができるよう、経鼻あるいは経口の気管内挿管の手技を習得する。
- (7) 人工呼吸器を適切に設定・使用できるようにする。
- (8) 非侵襲的陽圧換気などの補助換気や酸素療法を適切に使用できるようにする。
- (9) 気管支鏡検査、胸腔鏡検査、CT ガイド下肺穿刺検査の検体処理・提出法を学ぶ。
- (10) 右心カテーテル検査の手技を習得する。
- (11) 胸腔穿刺の手技を習得する。
- (12) 胸腔ドレナージの手技を習得する。
- (13) 呼吸器感染性疾患の適切な感染管理の知識を得る。
- (14) 抗菌薬が適切に使用できるようにする。
- (15) 抗癌剤の基本的な使用法を理解する。

## 5. 経験した方がよい疾患

- (1) 腫瘍性疾患(原発性肺癌、縦隔腫瘍)
- (2) 感染性疾患(肺炎、肺真菌症、肺結核、肺非結核性抗酸菌症)
- (3) アレルギー性肺疾患(気管支喘息、過敏性肺炎、好酸球性肺炎)
- (4) 肺胸膜疾患(胸膜炎、気胸、胸膜中皮腫)
- (5) 間質性肺疾患(特発性間質性肺炎、サルコイドーシス)
- (6) 気道閉塞疾患(肺気腫-COPD、びまん性汎細気管支炎)
- (7) 肺循環疾患(急性肺塞栓症、慢性血栓塞栓性肺高血圧症)
- (8) 呼吸調節障害(睡眠時無呼吸症候群、原発性肺泡低換気)

## 6. 週間スケジュール

火曜日:午後 気管支鏡/胸腔鏡/CT ガイド下肺穿刺

水曜日:午前 病棟回診

木曜日:午後 気管支鏡/胸腔鏡/CT ガイド下肺穿刺

金曜日:午前 病棟カンファレンス